

特別養護老人ホーム
ICT・IoTを採用した
次世代型特養の取組みをご紹介します



特別養護老人ホーム
弦巻の家
副施設長 藤巻 佳祐

プロジェクションマッピングを活用した生活意欲を高める新しい機能訓練

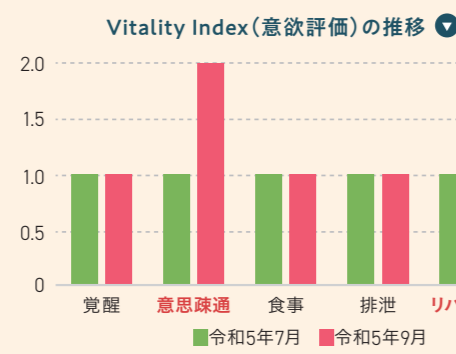
令和5年8月にオープンした特別養護老人ホーム弦巻の家では「プロジェクションマッピングリハビリ」を導入し、映像を使用しご入居者が楽しみながら身体を動かす機能訓練を実践しています。プロジェクションマッピングリハビリは、視覚的なガイダンスや刺激を提供することで筋力の回復や運動能力の維持向上を支援するのに役立ちます。

また認知機能のトレーニングや認識機能の向上を図ることもできます。たとえば、投影されたパズルや課題を解くことで、認知機能を刺激することができます。精神的なリハビリテーションにも有効で、美しい映像や音楽を組み合わせることで入居者の精神的な健康を支えることができます。



事例報告 ICTリハビリで心も体も意欲向上!

A様は入居前に評価したVitality Index (意欲評価)では10点満点中5点でしたが、令和5年8月に弦巻の家に入居後、1か月間プロジェクションマッピングを用いたリハビリを30分×週2回、継続して実施しました。令和5年9月での評価では「意思疎通」と「活動」の点数がそれぞれアップし、合計7点と評価が向上しました。初めは驚かれたり多少戸惑われたりする方もおりましたが、今ではA様も「これが楽しいのよ!うまいもんでしょ!」と、積極的にリハビリに取り組んでくださり、中にはプロジェクションマッピングリハビリがきっかけとなり、リハビリへの認識が変わるだけではなく、新しいコミュニケーションツールとしても、ご入居者のリハビリへの参加意欲に繋がっております。



楽しみながら自発的に身体を動かすことが、ADLやQOL向上への効果を生み出します。弦巻の家ではご入居者にとってサステナブルな機能訓練を追求していきます。



地域貢献活動 (フードパントリー・子ども食堂)

重層的支援体制構築の一環として、地域の食支援を行っております。足立区の特別養護老人ホーム奉優の家では、企業様、社会福祉協議会、社会福祉法人連絡会にご協力いただきフードパントリーを月に1回開催しています。約40世帯への支援を行っています。世田谷区の特別養護老人ホーム等々力の家では、子ども食堂を開催し、子ども27名大人14名計41名の方が参加されました。地域の高齢者の方にもご参加いただき、高齢者の孤食予防にも繋がっています。特養の持つ専門職のネットワークを活かし、介護事業所だけでなく、ボランティア、飲食店、学校にもご協力いただいております。大人から子どもまで一人でも多くの方に知っていただく為に広報活動を積極的に行い、世界的な物価高騰、フードロスなど様々な問題を地域課題から吸い上げ、今後も積極的に、取組んで参ります。



安心で豊かな、福祉サービスをあなたに。

For You Care Lab vol.4

フォーユー ケアラボ



つながる・つなぐ
~地域活動の再開~



理事長交代のご挨拶 社会福祉法人 奉優会 理事長 香取 寛

私たち奉優会は、1963年に看護婦家政婦配せん紹介事業の「大橋サービス」を創業した香取眞恵子(現:特別顧問)が、介護保険制度の施行と市場環境の変化に対応するために1999年に業態転換し設立した社会福祉法人です。

病院の付添人や家政婦として地域の介護を支えていた女性たちの働く場所を守り、安心して暮らされ続ける環境を創るために設立された公益団体です。

設立当時から「地域に開かれた福祉」を念頭に置き、高齢者の尊厳ある生活を守る自立支援サービスの提供や介護福祉事業職の社会的地位向上に尽力して参りました。

2017年の社会福祉法の改正を機に、経営組織のガバナンスの強化や事業運営の透明性の向上などの改革を積極的に推進しました。

また、介護福祉人材の確保・育成対策も促進し、事業領域を「首都圏都市部の高齢者向け社会福祉事業」に特化し経営資源を集中化することで、効率的に自立支援サービスを提供し多くの福祉事業を広げることができました。

2019年4月には事業規模も100億円を超え、公益団体として大きな節目

を迎えることができました。そして、組織として次のステージへ向かっていくための表明として、法人理念とコーポレートロゴを一新しました。「Action by Glocalization」これは大きな夢を視覚化する力を養いたいという思いから生まれた言葉です。

奉優会の理念は「地球規模で考え足元から行動する社会福祉法人となるため、やりたいことで圧倒的な価値を生み出し、地域の人々が育つことで生活が革新する」という仕組みを世界で発信していくこと」です。それを私達は具現化してまいります。

私たち奉優会は成長を重ね、組織としてのステージが大きく変化しつつあります。この「変化」とさらなる「成長」の機会があることに感謝し、そしてこれからも法人のアイデンティティの浸透と緊張感のある経営を追求し、また多角化・多機能化をはかり、多様な福祉ニーズへの対応力を向上させていきます。

今後とも、皆様との温かなご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



奉優会の充実したスキルアップサポート

奉優会ではサービスの質の向上と職員のスキルアップを目的として職員の資格取得・維持のための取組みを行っています。今回はその一例として、ケアマネ資格に関する取組みをご紹介します。

ケアマネジャー受験対策講座

介護支援専門員の資格取得を目指す職員向けに受験対策講座を法人で主催。資格取得の支援を通して、キャリアアップやキャリアチェンジを目指す職員を応援したいと考えています。講座はオンラインを活用し、事業部を超えて無理なく参加できる形式で法人内の現役ケアマネが講師となり試験対策を行っています。

ケアマネ・主任ケアマネ資格取得・維持費用の支援

奉優会では、介護支援専門員の受験料・実務研修費用・更新研修費用、資格の取得・維持に必要な費用を法人で支援しています。介護職だから経験を積み、新たな挑戦がしやすいことに加え、ケアマネジャーとして安心して働き続けられる環境を整備しています。

対象費用例	支援内容
介護支援専門員	受験費用、実務研修費用、更新研修費用、専門I研修費用、専門II研修費用
主任介護支援専門員	研修費用、更新研修費用

資格支援を利用した職員の声

- ケアマネジャーは更新費用が高額のため、とてもありがたかったです。
- 業務時間内に研修に行かなくて良かったので、大変助かりました。
- 資格の更新はずっと続いているので、支援はとてもありがたいです。
- 講座受講に際しての心構えに良い影響がありました。
- モチベーションが上がりました。
- ケアマネの勉強に力が入りました。
- 費用を負担してもらって経済的に助かりました。

職員募集中!!

奉優会では一緒に働く仲間を募集しています。説明会・見学会も開催中。個別対応も可能です。お気軽にお問合せください。

ケアマネ お仕事紹介はこちら! / 採用情報は こちら!

【お問い合わせ先】
中途採用担当
E-mail: Jinji-career@foryou.or.jp
TEL: 0120-31-3140

新規開所・開所予定施設

<p>特別養護老人ホーム 弦巻の家</p> <p>所在地 世田谷区弦巻5-34-5 ● 田園都市線「桜新町」徒歩12分</p> <p>事業内容 特別養護老人ホーム(108名) 老人短期入所施設(12名) 看護小規模多機能型居宅介護(登録29名、通い18名、宿泊9名) 地域交流スペース</p> <p>運営開始 2023年8月1日</p>	<p>(仮称)特別養護老人ホーム せたがや代田</p> <p>所在地 世田谷区代田1-21 ● 小田急線「世田谷代田」徒歩10分</p> <p>事業内容 認知症対応型共同生活介護(18名) 看護小規模多機能型居宅介護(登録29名、通い18名、宿泊9名)</p> <p>運営開始 2024年12月(予定)</p>	<p>(仮称)優つくり村板橋四葉</p> <p>所在地 板橋区四葉1-16 ● 東武東上線「下赤塚」駅 徒歩16分</p> <p>事業内容 認知症対応型共同生活介護(18名) 看護小規模多機能型居宅介護(登録29名、通い18名、宿泊9名)</p> <p>運営開始 2025年3月(予定)</p>
---	--	--

For You Care Lab vol.4 社会福祉法人 奉優会(ほうゆうかい)法人事務局 154-0012 東京都世田谷区駒沢1丁目4番15号 真井ビル5階
フォーユーケアラボ 2023 AUTUMN TEL: 03-5712-3770 FAX: 03-5712-3771 https://www.foryou.or.jp/ 2023年11月発行

グループホーム 小規模多機能 看護小規模多機能
地域と共に歩む
優つくり事業部のコロナ5類後



グループホームつばめの里
主任 佐々 菜摘

優つくり事業部ではコロナ前までの地域との「つながり」に戻りつつ、新たな社会づくり力を入れています。認知症が特別なものではなく、社会の中で共存していけるよう、認知症ケアの切り口を広げていきます。

認知症ケア

認知症の本人が生き生きと自分らしく生活する為に、モンテッソーリケアのメソッドを活かし、一人一人に合わせた「環境」を整え、「活動」と「役割」を担って生活できる日々の認知症ケアの発明を行っています。

モンテッソーリケアとは?

モンテッソーリケアとは、認知症のご利用者がいつでも自分らしく、自己肯定感を持ち「自分で選択する機会」が日常にあることで、幸せに暮らせるように支援するケア方法です。

モンテッソーリケアの様子はこちら!

CHECK!! 新規施設では居室や扉、壁紙、表札の個々の色調を変え、視覚に刺激を与え、認識力を高める動きかけを行っています。フロア内では自由に飲み物を選択でき、好きな時に好きな飲み物を楽しめる環境を構築しています。

優つくりカフェ

都内に15カ所展開している優つくり村(事業所)では、コロナ5類後、様々なイベントを企画し地域交流を再始動しています。地域ごとにカラーの違った『優つくりカフェ』を展開し、ご利用者とその家族、地域のみならず、職員とが一緒に過ごす時間が戻りつつあります。



地域との関係性づくり

認知症に対する正しい知識や理解を普及するためのまちづくりイベント『RUN伴(らんとも)』に参加。介護保険サービスだけでは、支援しきれない人たちが存在する今、地域密着事業所として、地域の社会資源の把握(人や活動、課題など)と当事者意識をもち、新しいインフォーマルサービスを「育てる」発明する」社会的起業家を育成し、地域住民が主体となる第二のセーフティネットをつくっています。

RUN伴とは? 認知症本人や家族、支援者、一般の人が「ロー」をしながら1つのタスクをつなぎ、ゴールを目指すイベントです。

REPORT! 町田RUN伴

町田RUN伴では優つくりカフェカーでコーヒーの販売を行いました。来店者数は128名にのぼり、町田市のケアマネジャーの方々ともご挨拶でき、今後の優つくり事業部の活動の幅が広がりました。

地域の中でつながる 城西エリアでの連携

居宅介護支援

複雑化・多様化する社会ニーズに対応する 外国籍ケアマネジャーのケアマネジメント

地域包括ケア事業本部
居宅事業部
部長 寺尾 弘子

私をご報告します!



居宅事業部では、奉優会初の中国籍ケアマネジャーが活躍しています。中国残留邦人等の方々への支援の中でご利用者、ご家族の声を聴き、一人ひとりに向き合いサービスを繋げました。8050問題や生活困窮など、福祉のニーズがますます複雑化・多様化する中、居宅事業部では、さまざまなニーズに対応できるよう専門性を高め、良質かつ適切なケアマネジメントを行っています。

奉優会で働く外国籍の職員



李 牧遥 (Li Muyao)

中国遼寧省出身。小学生の時に祖母と暮らしたことがきっかけで、高齢福祉に関心を持ち、大学で「高齢者介護」を専攻。当時の中国は介護保険制度がなく、介護技術も進んでいなかったため、日本で先進的な福祉を勉強する機会があり、2009年来日。特別養護老人ホームでアルバイトをしながら、日本語を勉強し、福祉系大学に編入。その後、大学院に進学。介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員の資格を取得している。現在、事業所責任者として活躍中!

事例① 言葉が通じないため自宅から出ないケース



中国残留孤児の夫が施設に入所し、独り暮らし。膝の手術後、家事や入浴などの動作が困難になっていた。デイサービスを勧めたが、日本語ができないため「行きたくない。」と話し、外出もなくなり、自宅に引きこもっている状況であった。

対応

リハビリが必要と考え、中国語対応が可能な訪問看護事業所を探す。翻訳アプリを利用して対応してくれる事業所が見つかり、サービス開始。ケアマネジャーがご本人と事業所の間立ち、体調の変化や自身の気持ちなど、アプリでは伝わりにくい細かいニュアンスを伝えた。

結果

- ご利用者の表情が明るくなり、気持ちが前向きになった。
- 「日本語を勉強したい」と話すようになった。
- デイサービスに行くようになった。
- 言葉の壁を越え、信頼関係が構築できた。

事例② 精神疾患と間違われていたケース



孫と二人暮らし。中国残留孤児で日本語が話せず、近所の人とトラブルを起こして警察が来ることもあり、周りの人からは精神疾患があると思われていた。通院は、必ず孫が同行して通訳をしていた。

対応

ご利用者と向き合い、話を聴いたところ、トラブルの原因は、言葉が通じない事で冷たい態度を取られたことであった。「私は同じ日本人なのに、理解してもらえない。」と胸の内を明かしてくれた。通院時に必ず同行する孫が10代の学生であったため、介護の負担が大きく、適切なサービスに繋げる必要があった。

結果

- 正しい情報を伝える事で、誤解が解け、理解者が増えた。
- 適切なサービスの利用で、ヤングケアラーの可能性があった孫の介護負担が軽減された。

地域包括支援

~成年後見制度~ 法人後見、始まります!

私をご報告します!



地域包括ケア事業本部
地域包括支援事業部
部長 内藤 麻里

法人後見は、複数の職員で対応することにより、役割分担しながら継続的な伴走支援ができます。本人の意思決定を尊重しながら長期に渡り支えていきます。また職員のソーシャルワークの実践力向上にもつながり、「法人内で後見活動ができた」との社会福祉士等専門職の仕事へのやりがいも向上。法人後見事業、いよいよ始まります!

成年後見制度とは? 認知症や知的障害、精神障害などによって判断能力が十分でなくなり、自分ひとりでは、契約や財産の管理などを行うことが難しい方が、自分らしく安心して暮らせるように、その方の権利を守り、法的に支援する制度です。

法定後見制度

既に判断能力が不十分な方の権利や財産を保護するため、家庭裁判所に後見等開始の申立てを行います。申立てができる人は、本人、配偶者、四親等内の親族等です。判断能力に応じて「補助」・「保佐」・「後見」の3つの類型に分けられます。

後見	保佐	補助
判断能力を常に欠く状態	判断能力が著しく不十分	判断能力が不十分

本人の判断能力の程度

家庭裁判所から選任された成年後見人等が、本人の心身や生活等に配慮しながら法律行為(財産管理・身上保護)を行います。

任意後見制度

将来、判断能力が衰えたときに備えて、あらかじめ本人が選んだ方(任意後見受任者)に、支援してほしい事柄について代理権を与える契約を公正証書で結んでおきます。

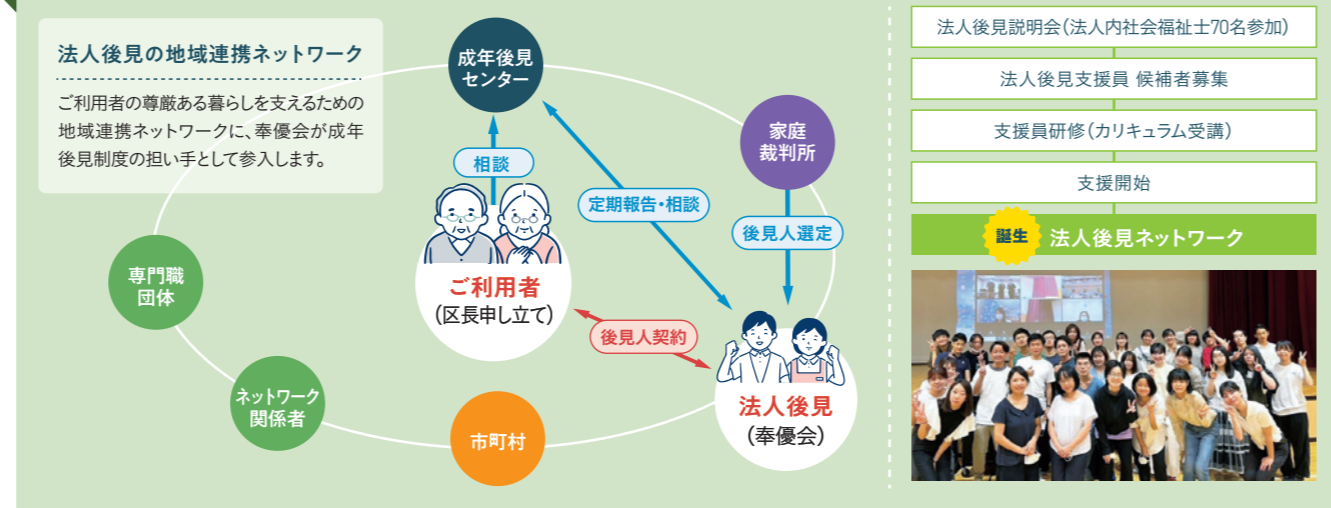
判断能力が低下

本人の判断能力が低下したときに、家庭裁判所に任意後見監督人の選任申立てを行います。申立てができる人は、本人、配偶者、四親等内の親族、任意後見人になる人(任意後見受任者)です。

任意後見人の活動スタート

家庭裁判所で任意後見監督人が選任されて初めて、任意後見契約の効力が生じ、任意後見契約に基づいた任意後見人としての活動が始まります。

しあわせネットワークプロジェクト 後見人になりたいという声から、法人後見の取り組み・職員の育成につながりました!



法人後見のメリット

- 01 長期にわたる後見業務の継続性: 長期にわたるケースについても、法人後見担当職員が交代しながら、法人として継続して後見業務にあたることができます。
- 02 組織による後見業務の管理体制が確立: 法人組織の管理体制により、後見業務の信頼性や安全性を高めることができます。後見人の不祥事を防止することができます。
- 03 組織による対応力: 個人の後見人では受けにくい困難ケースについても、様々な経験者のネットワークで専門能力を発揮できる。担当者の負担を軽減できます。

デイサービス

デイサービスが運営する“重層的支援”カフェラウンジ ご利用者が安心して活躍できる仕組みを紹介

私をご報告します!



渋谷区ケアコミュニティせせらぎ
高齢者在宅サービスセンター
責任者 加藤 大貴

渋谷区ケアコミュニティせせらぎ高齢者在宅サービスセンターでは、地域の方々が気軽にご利用頂けるカフェラウンジを併設で運営しています。ここに集う方へ緩やかに見守りを行いながら、お困り事があった場合適切な関係機関をご紹介しますなどパートナー支援を行っています。地域に住む皆さんがご自宅安心して過ごして頂けるよう、包括的な取り組みを行っています。

重層的支援カフェ

3つの機能

多職種が集う場所

地域づくり支援

見守りパートナー支援

社会福祉法人が運営するカフェとして、子どもから学生・障がい者、生きづらさを抱えた方、子育て世代、高齢者の方々から様々な相談を受け、専門機関につなげられる場所



介護が必要になっても安心のメリット

繋がる安心感

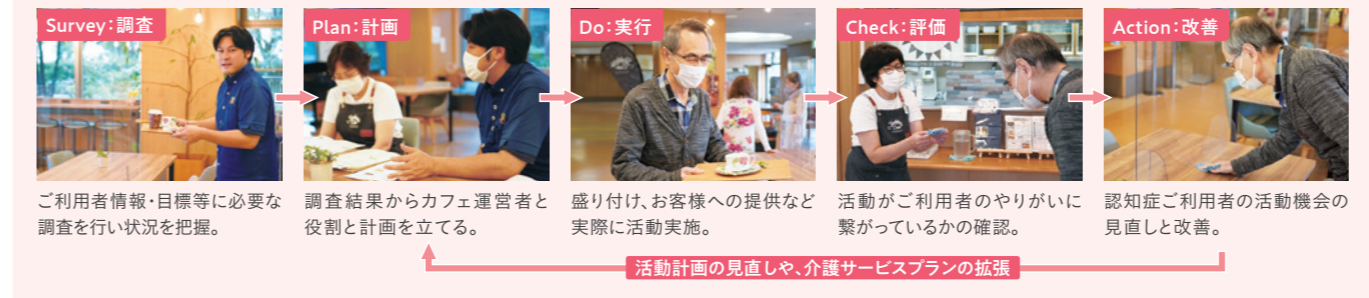
- 社会的交流の場
- 多世代交流
- フレイル予防
- 相談の場
- 介護サービス紹介
- ボランティアマッチング

事例 施設サービスを超越して地域にアウトリーチするカフェラウンジ機能

せせらぎラウンジでは、地域の多くの方々との協力し、若年性認知症当事者の方による講演や福祉機器体験、子育て世代の交流や子供向けイベント、丸亀製麺のうどん提供などの様々なイベントを開催しています。私たちは、施設内の介護サービスや機能訓練、AI、DX活用プログラムのサービス提供に加えて、積極的に地域と連携を図り、多くの方々の相談支援や参加支援、地域づくりに努めています。今後はせせらぎラウンジの事例をもとに、他デイサービスにおいてもコミュニティカフェ事業を展開する予定です。ご利用者と地域の結びつきを強化し、地域イベント等の開催を通じて、ご利用者の活躍の機会を作りながら、積極的に地域にアウトリーチを行い、地域社会への貢献を継続します。

認知症高齢者も活躍できる仕組み

●デイサービスが運営するカフェで、要介護状態・認知症(若年性含む)の方も安心して、社会に貢献し活動できる場所を提供。全国の認知症患者数は460万人で、2025年には700万人に増加する見込みです。特に若年性認知症患者数は約3.78万人で、平均発症年齢は約51.3才となっています。この年齢層に合わせた専門的なケアと社会支援が求められています。これに応じて、せせらぎデイでは、通所サービスや認知症対応型サービスの専門知識と技術に加え、併設のカフェでのサポートを提供しています。



高齢者福祉センター

地域福祉の好循環! すべての人が輝く ユニバーサルファッションショー

私をご報告します!



城東/亀戸ふれあいセンター
統括責任者 瀬藤 尚文

公共サービス事業部は、各市区町村より指定管理及び委託を受けて、高齢者福祉センター、区民センター、就労支援、ファミリーサポート事業等に携わっています。

1. 高品質サービスの提供による地域福祉の好循環を創ります!

社会貢献や自己実現をテーマとして、「地域の担い手の育成」と「地域活動への支援」を行い、自主グループ化した地域の皆さまが、地域の中で活動できるように支援いたします。

ボランティアコーディネート

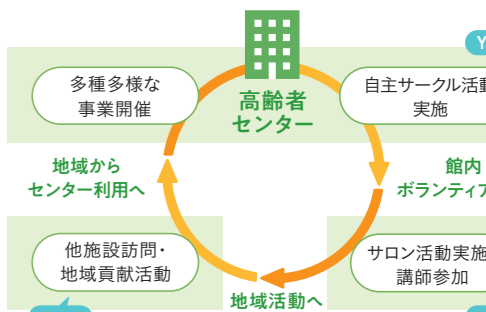
YELLは、ボランティアの力が必要な人や施設と、ボランティアをしたい人や団体がつながる機会を提供します。YELLを通じて、人々がつながり、支え合いの絆を深めることで、だれもが安心して暮らせる地域づくりを行います。

▼マッチング実績

ファッションショーでの、ヘアメイク、衣装作成(編み物含む)、撮影、裏方 他



高齢者センターを中心とした地域活動の好循環



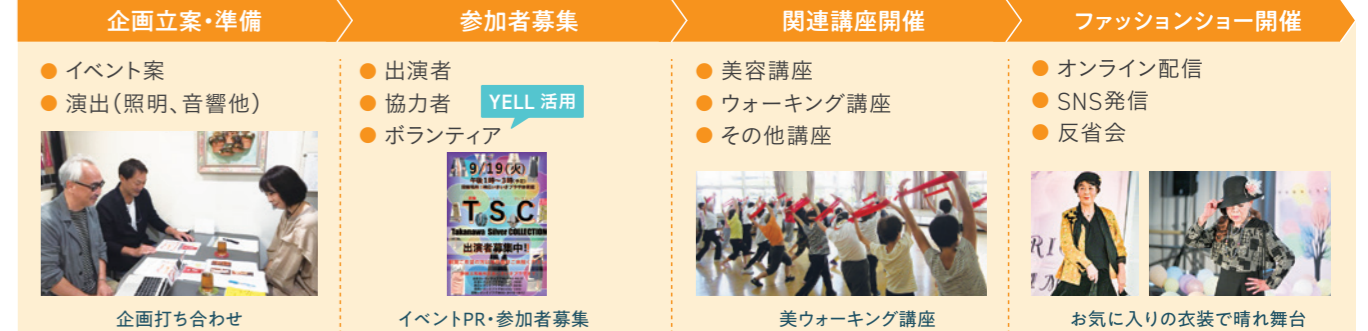
2. すべての人が輝くユニバーサルファッションショーの開催!

「ユニバーサルファッションショー」は、誰もが人生を輝かせる機会となることを目的としています。地域が一体となり、属性に関わらず、様々な世代の方々がお楽しみいただけるイベントです。ご利用者がモデルとなり、ヘアメイクや衣装制作、撮影や司会など、自身の特技や経歴、新たに挑戦したい気持ちを活かし、其々に役割を担って頂きます。この成功体験をもと、自信や誇り甲斐、生きがいへと繋がっています。直近で港区高齢者福祉センター4館では、「高齢シルバーコレクション」での出演者・観覧者数は総勢122名。北区立いきがき活動センター(きりり北)では、オンラインを活用し同時配信することで、ご親族やご友人の方にもご覧いただくことが出来ました。



ユニバーサルファッションショー開催

ファッションショー開催までの流れ



3. ファッションショーに関わったことで、より人生が輝きはじめる

高品質サービスの提供の一つの事例として、この「ユニバーサルファッションショー」は、年齢、性別、国籍、障がいの有無などに関わらず、誰もが主役になり誰もが輝くことができるイベントです。高齢者センターが拠点となり、地域で暮らす人々がより輝き、活躍できる場を提供することで、地域活動の好循環を生み出しています。ともに地域をさらに元気にしていく幸せを広げながら、地域さらには社会全体の活性化を目指しています。



モデルとしてご出演のAさん
この年齢でこんなに綺麗にできて、ランウェイを歩けるなんて、夢にも思わなかった! 皆さんの笑顔に囲まれ、とてもいい思い出になりました。

先駆的な取り組みの共有で、実践力とスキルを高め合う

日頃の支援を通じて、外国籍職員が資格を取って働く大変さや外国に繋がる方で、支援を必要としている方、地域との繋がりがまま孤立してしまう方などがたくさんいる事を感じています。奉優会で毎年開催している「事例研究発表会」での事例発表や日本ケアマネジメント学会が開催する研究大会に事例を発表し、先駆的な取り組みの共有で、実践力とスキルを高め合い、様々な情報を奉優会居宅事業部から発信していきます!



令和5年6月22・23日
日本ケアマネジメント学会
第22回研究大会「優秀賞」受賞